

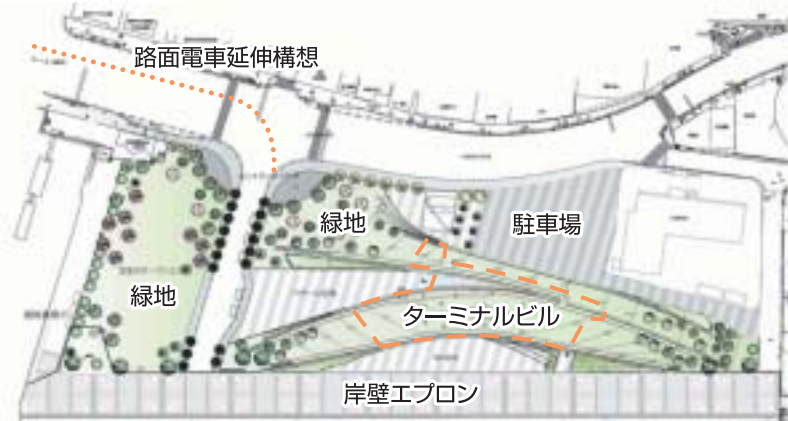
(6) 長崎港松が枝国際観光船ふ頭の整備

長崎港は、昭和33年の国際観光船「カロニア号」入港以来、半世紀に渡り数多くの観光船を受け入れてきました。特に、近年は、外国籍観光船の入港が増加しており、日本一の寄港実績を誇っています。このような中、世界の観光船は年々大型化しており、10万総トン級が主流となりつつあります。長崎港松が枝岸壁では、このような観光船の大型化に、いち早く対応するため、日本で初めて10万総トン級岸壁を計画、直轄事業により整備し、平成20年11月に完成しました。今後は引き続き、都市再生総合整備事業において目的としている国際ゲートウェイ(玄関口)機能の再生や景観向上を目指し、国際ターミナルビルや緑地などの整備を行います。

- 【事業主体】 長崎県
- 【関係地域】 長崎市
- 【事業期間】 平成20年度～平成22年度完成目標
- 【進捗率】 38%(平成20年度末)
- 【総事業費】 約17億円
- 【平成21年度事業内容】 事業費:6億200万円
施設:ターミナルビル、緑地など

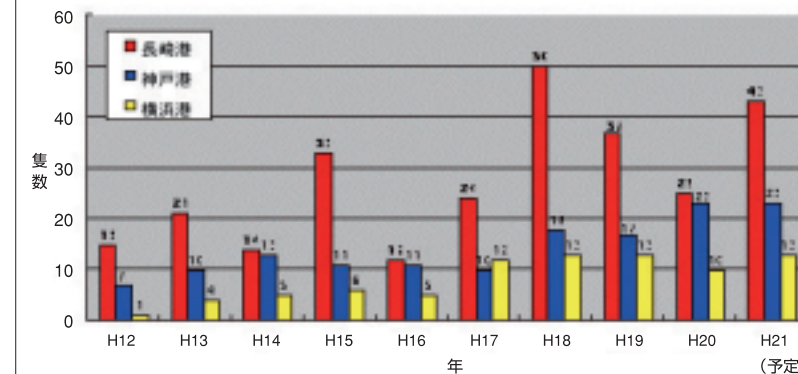


整備計画平面図

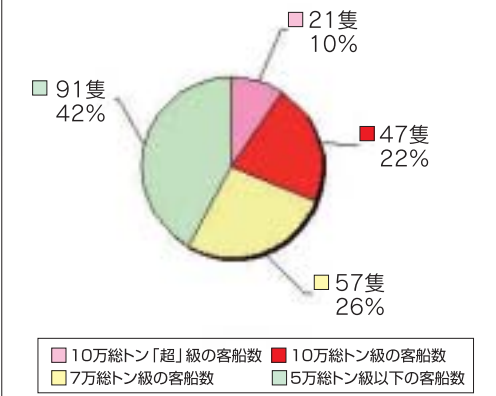


緑地は、隣接する長崎水辺の森公園と同様に、環長崎港地域アーバンデザインシステムを活用し、大浦天主堂や旧グラバー住宅などに配慮した魅力的な景観とします。また、国際ターミナルビルは、客船寄港時の入出国に必要な機能はもとより、多目的に利用可能なホールづくりとしました。このことにより、観光船寄港時だけでなく、日常でも県民の憩いの場やイベントなどの利用で賑わう空間を創出します。

主要観光港の外国籍観光船入港実績



世界の観光船 216隻



長崎は、イーストアジアクルーズに優位な位置に存在しています。

地中海



長崎港と環黄海都市 (イーストアジアクルーズ)



カリブ海



長崎から上海までの800kmは、観光船で1日の船旅圏内。今後もアジアに近い地理的な優位性を生かし、大型観光船の入港は増えていくと予想されます。



延伸岸壁の供用開始後、初の10万総トン級観光船として、平成21年3月5日に入港した「クイーン・ヴィクトリア」。日本初寄港となる今回は、長崎港だけに入港しました。



観光船の入港を歓迎して行われるセレモニー



海外から訪れる観光客は、県内各地の観光地を訪れます。経済効果は2千万円/隻が見込まれています。